

# 議 平生町 議会だより

3月議会報告  
3月定例会3/7~21(15日間)

第172号  
2024年4月26日

発行 平生町議会 発行責任者 中村 武央  
〒742-1195 山口県熊毛郡平生町大字平生町 210-1  
TEL 0820-56-7110 FAX 0820-56-7109  
E-mail gikail@town.hirao.lg.jp  
編集 議会広報広聴調査特別委員会  
印刷 中村印刷株式会社



## メルカート di ひらお (3月24日)

～マックスバリュ平生東店前～

主  
な  
内  
容

定例会・新年度予算・予算特別委員会 .....	P. 2～4
常任委員会審査報告・討論・人事案件 .....	P. 5～6
いっぱん質問 6人 .....	P. 7～12
臨時会・説明会報告 .....	P.13
研修報告・6月定例会会期予定・議会の動きなど .....	P.14

# 令和6年度予算

一般会計  
特別会計

# 合計 105億6,323万6千円を可決

令和6年度予算（案）などを審議する3月定例会は3月7日から21日までの会期で開かれ、補正予算6件、新年度予算6件、条例10件、事件3件、同意1件、諮問1件が上程されました。最終日の21日には、すべての議案を全会一致または賛成多数で可決し、閉会しました。

## 令和6年度 予算編成方針（概要）

第五次平生町総合計画・第2期総合戦略の4年目であり、将来像である「自然豊かな活気あふれる幸せのまち 平生」の実現に向けて、基本目標の施策を着実に推進していきます。

社会経済状況の変化を捉え、子ども・子育て政策の更なる拡充、脱炭素に向けた取組、また、デジタル技術を活用した住民サービスの向上や業務の効率化など、様々な変化と課題に対して、的確な対応を図るとともに、物価高騰などについても引き続きの対策を講じる必要があります。

以上のことから、令和6年度の予算編成テーマを「子ども・子育て政策の推進」、「地域資源を活用した地域ブランド戦略」を重点施策事業と位置づけ、総合計画の基本目標を踏まえた予算編成を行いました。

## 各会計予算の特徴

### 一般会計

前年度に比べ、2億3,300万円増の予算になっています。

歳入では法人事業税交付金が1,300万円減、地方消費税交付金が8,200万円減、地方交付税が3,100万円増、繰入金が約1億2,000万円増、

町債が約5,800万円増が主な変化です。

歳出では、丸山海浜パーク環境整備事業750万円、第2子以降保育料無償化事業665万円が新たに所得制限なしで行われます。田布施町との共同調理を行う、学校給食集約化事業が約1億8,200万円、

## 予算総括表

（単位：千円）

会計名	本年度	前年度	増減額
一般会計	6,036,000	5,803,000	233,000
特別会計	3,380,086	3,382,105	△ 2,019
国民健康保険事業勘定特別会計	1,600,415	1,697,085	△ 96,670
熊南地域介護認定審査会事業特別会計	25,857	24,873	984
介護保険事業勘定特別会計	1,443,380	1,385,910	57,470
後期高齢者医療事業特別会計	310,434	274,237	36,197
企業会計	1,147,150	1,160,480	△ 13,330
下水道事業会計			
収益的支出	585,461	556,454	29,007
資本的支出	561,689	604,026	△ 42,337
一般会計・特別会計合計	10,563,236	10,345,585	217,651

### 特別会計

国民健康保険は、療養給付費の減少を見込み、予算総額は減少。基金から約2,780万円繰り入れを行います。が、保険税は683万円増となります。

介護保険では、予算総額は約5,750万円増となりますが、保険料は低所得者の軽減措置を踏まえ、約580万円程度減少となります。

後期高齢者医療の会計では医療給付費の増加と保険料収入も増加します。

### 下水道事業会計

下水道事業では営業収益の使用料は、人口減少と節水機器の普及により減額です。

資本的支出は約4,200万円減少しています。建設改良の下水道事業費と企業債償還金の減額が主なものです。



丸山海浜パーク

社会福祉協議会と連携して取り組む地域福祉推進体制強化事業及び災害時地域福祉支援体制整備事業がそれぞれ600万円と200万円、内水浸水想定区域図等策定4,000万円、公共施設照明のLED化に約5,500万円、物価高騰に対応するために自治会に臨時交付金363万円が交付されます。



# 予算特別 委員会の 審議内容 3月12日・13日

## 一般会計

**質問** 危険な空き家に対してどこまで踏み込んだ対応ができるか。緊急代執行も視野に入っているのか。

**答弁** 町が危険とした案件に対して固定資産税の住宅特例の適用をはずす指導や裁判所に申立てができる制度である。

**質問** 生活改善実行グループ連絡協議会2万円に関わる来年度の活動予定など話されているか。

**答弁** この2万円は、柳井広域と県への会費負担の予算である。会長と話はしっかりできて

いる。

**質問** 特産品開発の加工施設はどこか。

**答弁** オリーブについては委託して加工する。委託先は、九州オリーブ普及協会である。



**質問** ひらおハートピアセンター改修費で

LEDの照明改修に200万円の予算があがっているが費用対効果はどうか。

**答弁** 耐用年数の38年をもうすぐむかえるがオリーブ事業などで一体的に使っていききたい。

**質問** 今年の交付税の中で、起債の償還に充てられる部分はどのくらいか。

**答弁** 理論値ではあるが、4億1,600万円である。

**質問** 地域公共交通計画の概略の内容は。

**答弁** パブリックコメントは受付を終了し取りまとめ中である。今ある公共交通や各地域で行っている移動支援などを含む基本方針を定め事業内容を精査し、5年間のスパンで毎年見直しをしていくものである。

**質問** 消防費の委託料で防災公園等基本設計業務2,000万円の内容は。

**答弁** 場所は庁舎近辺。防災公園、災害ボランティアセンターに使える管理棟（支援物資な

どの集積場所、備蓄基地）を考えている。遊具は検討中である。

**質問** この計画をもっと慎重に進められないか。

**答弁** 財源に充てたい起債の期限が迫っている。時間はないが本町に足らない部分をこれで補完していきたい。

**質問** 補助金の期限があるから大急ぎでやりたないとは、予算としてはいかがなものか。

**答弁** 以前より構想はしていた。この時期までに他のものがあつたのでやれなかった。急遽という話ではない。



**質問** 公園が欲しい、防災教育の拠点も欲しい。防災に関してここで力を入れておくことが良い。防災公園に関して、今後議会で報告を受けながら、進めていくということはどうか。

**答弁** この件については、議員の皆さんと一緒に協議を十分させていただきながら進めていきたい。

**意見** 町民みんなが学んで、自分たちの命を守るために整備する予算だと理解している。

**質問** 中山間地域等直接支払交付金と多面的機能支払交付金の額が伸びていない理由は。

**答弁** 全体の傾向としては減少だが、再度始める集落もある。この制度は農業を維持していく上で非常に有効な制

度と考えている。

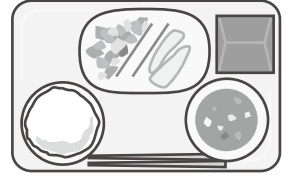
**質問** 商工振興費で、県からの負担金補助及び交付金が付いているサテライトオフィス誘致促進、平生港利活用促進補助金について現在の活動状況は。

**答弁** 平生町の特性に合った企業の誘致をしていくので機会をとらえて積極的に企業と調整を図っていく。

**質問** 国際貿易港である田名ふ頭の利活用については、近隣の船舶代理店や通関事業者へPRしていきたい。

**質問** 平生港利活用促進補助金30万円の内訳は。

**答弁** 1事業者あたり15万円×2件の全額補助金である。



**質問** 学校給食の町内の食材納入業者の事業の継続は大丈夫か。

**答弁** 食材は学校給食会からも食材が調達できるので給食は維持できる。

**質問** 健康観察アプリとは何か。情報管理はきちんとなされているか。

**答弁** 児童生徒のメンタルヘルスや学級の変容を関係者が早期把握するためのアプリである。情報管理はしっかりと行っていく。

**質問** 学校給食費の公会計への移行はいつ頃を考えているか。

**答弁** 田布施町と一緒に給食事業を始めるタイミングで検討をすすめていきたい。

**質問** 秋森駐車場整備事業1,500万円の内容は。

**答弁** 海が近いいため樹脂の注ベンチの設置、車止め、カラー舗装、転落防止柵設置などを計画。

**質問** 地元自治会へは相談したのか。

**答弁** 地元と調整していききたい。

**質問** 消防費、非常備消防費の食糧に液体ミルクは含まれているか。

**答弁** 液体ミルクは今回の予算措置に入っていない。

**質問** マイナンバーカードと保険証の一体化、あるいは証明書の発行などで町内のトラブルはあるか。

**答弁** トラブルで相談や苦情はない。

**質問** 福祉センターの改修1,000万円。照明のLED化と2階の空調とある。共同運営である田布施

町の持ち分は、あるか。  
**答弁** 令和4年4月に田布施町と共同で社会福祉法人はるかに委託してゆうなんこども家庭支援センターを設置することになり、事務費を按分している。改修経費の田布施町の持ち分はないが、今後センターが古い施設なので田布施町にも協力を申し入れたい。



**質問** 水道料金が上昇している。低減対策事業費は今後も継続するのか。

**答弁** 水道事業の運営はかなり厳しい、今後も状況に応じて繰出金の扱いで支出していく。

**質問** 柳井地域広域水道事業

について、例えばどのような合理的になるのか、将来の料金をどう抑えるのか、今何のために統合するのか具体的な話がわかる資料を出せないか。  
**答弁** 出せるものは、出していく。

**国民健康保険事業勘定特別会計**

**質問** 県への納付金は約3億4,600万円、平生町で集める保険税は約2億400万円、その差額の財源は。

**答弁** 医療給付分として県の補助金、特別交付金等もある。それを活用し財源措置をしている。

**介護保険事業勘定特別会計**

**質問** 地域包括支援センターの事業者が社協から変わる。このことで心配している。どうしてこうなったのか。

**答弁** 必要な職種の人員配置が困難であり、事業ができないという話だったので、できるところに委託する形になった。



補正予算

令和5年度平生町各会計補正予算

一般会計は、2億2,613万7千円を減額補正し、合計63億4,400万5千円となる。特別会計は、6,536万円を減額補正し、合計34億1,911万7千円となる。今回から、企業会計となった下水道事業は、3,984万8千円を減額補正し、合計11億2,282万1千円となった。

令和5年度平生町各会計補正予算総括表〈3月〉			(単位:千円)	
会計区分	補正前の額	補正額	計	
一般会計	6,570,142	△226,137	6,344,005	
特別会計	3,484,477	△65,360	3,419,117	
内訳	国民健康保険事業	3,087	1,721,184	
	熊南地域介護認定審査会事業	25,923	25,728	
	介護保険事業	1,464,153	1,402,408	
内訳	後期高齢者医療事業	276,304	269,797	
	企業会計	1,162,669	1,122,821	
内訳	下水道事業	収益的支出	553,854	514,006
		資本的支出	608,815	608,815
合計	11,217,288	△331,345	10,885,943	

常任委員会審査報告

総務厚生常任委員会 3月14日

見込む。

本会議から付託された議案の審査の結果、議案は全て全会一致または賛成多数で「可決すべき」となりました。

主な質疑

**質問** 地域振興費の地方バス路線維持対策費として2,386万8千円が計上されているが、当初予算ではなく、補正で計上されるのは何か。

**答弁** バス事業者からの請求があるまで金額がわからないため、金額があきらかになった時点で補正をしている。

**質問** 国民健康保険事業勘定特別会計の補正は、事業確定に伴う補正か。

**答弁** この補正は事業確定見込みによるものである。

**質問** 会計年度任用職員全体で期末手当支給対象となる人数、および新たに支給対象となる人数はどのようになるのか。

**答弁** 会計年度任用職員は延べ204人、内139人が支給対象となる見込み。来年度は78人増を

**質問** 町長等の損害賠償の一部免責に関する条例及び平生町下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例については、内容に変更はないが、条ずれに対応するための改正で間違いはないか。

**答弁** お見込みのとおりである。

**質問** 町税、税外諸収入の督促手数料は廃止になっても、督促の手続きは今までもどおりか。

**答弁** 督促手続きはこれまでどおり行う。

**質問** 平生町国民健康保険税は基金を活用して抑えられているが、前年度と比べて引き上げられている。基金取り崩し額を2,700万円とした理由は何か。

**答弁** 基金の活用により税の負担を抑えている。また、県の示している標準保険税率のことも検討した上で取り崩している。

**質問** 平生町介護保険料は以前から基金を活用して引き下げられているが、来年度の引き下げ額はどの程度か。

**答弁** 保険料の改正に伴う影響額と

しては、約600万円である。

**質問** 平生町保健センター追加工事に伴い完成時期に変更はないか。

**答弁** 当初は6月末を見込んでいたが、8月末の完成を予定している。

産業文教常任委員会 3月15日

本会議から付託された議案の審査の結果、議案は全て全会一致で「可決すべき」となりました。

主な質疑

**質問** 道路橋梁維持費の工事請負費8,300万円の減額の具体的な内容は何か。

**答弁** 主には山辺穴ヶ迫・小倉線の法面工事であり、国の補助金内示が無かったため減額し、改めて翌年度に予算化して取り組む。



改善の待たれる山辺穴ヶ迫・小倉線



## 人事案件

### 平生町固定資産評価審査委員会委員の選任

小島康司さんの任期満了に伴い、後任に久原和幸さん（広島市）の選任に全会一致で同意しました。

### 人権擁護委員の推薦

岡田早苗さんを人権擁護委員に推薦したいとの申し出があったことから、全会一致で了承しました。

議案番号	条 例 名 ・ 事 件 名	審議結果
第16号	附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例	全会一致
第17号	平生町報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	全会一致
第18号	平生町会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例	全会一致
第19号	町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例及び平生町下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例	全会一致
第20号	督促手数料廃止に伴う関係条例の整備に関する条例	全会一致
第21号	平生町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	賛成多数
第22号	平生町手数料徴収条例の一部を改正する条例	賛成多数
第23号	義務教育小学校児童及び中学校生徒の通学費助成に関する条例の一部を改正する条例	全会一致
第24号	平生町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	全会一致
第25号	平生町介護保険条例の一部を改正する条例	全会一致
第26号	工事請負契約の締結について（変更） 平生町保健センター改修工事	全会一致
第27号	ひらお特産品センターに係る指定管理者の指定について	全会一致
第28号	山口県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び共同処理する事務の構成団体の変更並びにこれに伴う規約の変更について	全会一致

## 討 論

### 反対討論

赤松義生議員

#### 議案第4号 令和5年度平生町一般会計補正予算

平生小学校と中学校の給食を田布施町と共同調理するための予算が計上されています。調理する人の顔の見えない共同調理では子どもたちに感動してもらえない給食にはなりません。

#### 議案第10号 令和6年度平生町一般会計予算

9月から実施される3歳未満児の第2子以降の保育料無償化、会計年度任用職員の処遇も一定改善、学校給食の物価高騰分に対する補填、また、公共施設の照明のLED化事業など評価すべきものもあります。

しかし、政府の方針に基づきマイナンバー予算をはじめとする「デジタル化」の推進などの予算が生まれ、20業務を統一する自治体システムの標準化が押し付けられています。今後は標準化圧力に抗して、財源も含め、独自施策と地方自治を守ることが求められます。本格的に、学校給食の田布施町との共同調理のための予算が計上されています。これまで色々な方々の協力で自校方式の給食が維持されてきました。町の賑わいを維持していくためにも賛成できません。

#### 議案第11号 国民健康保険事業勘定特別会計予算

国保は国民皆保険制度の一環をなすものです。しかも社会的弱者といわれる方々が多く加入されている保険制度です。他の保険制度と違い応能割に加え応益割があり、加入者を苦しめています。

#### 議案第13号 介護保険事業勘定特別会計予算

保険料は約580万円程度引き下げられました。しかし、訪問介護の基本報酬が引き下げられる方向です。介護従事者の処遇改善と事業所の存続のために、低すぎる国の公費支出の引き上げを求めます。

#### 議案第14号 平生町後期高齢者医療事業特別会計予算

保険料の均等割が4千円程度引き上げられます。長い間、社会に貢献されてきた方々に対し、年金も実質的には増えない中、保険料の引き上げは認められません。

#### 議案第21号 国民健康保険税条例の一部を改正する条例

基金を繰り入れ、県の示す標準保険料率よりも少ないものになっていますが、物価高騰に苦しむ国保の加入者にとって保険料の引き上げは、耐えがたいものです。



中川裕之 議員

# いっぱん質問



が聞きたい

## 質問 本町の災害時の備えについて

### 答弁 団員の災害対応能力の向上を図っていく



**質問** 各種災害が発生して自宅に留まる事が危険な状況の場合は、緊急避難場所として22か所の施設がある。

今回の能登半島地震を機に避難所の強靱化には評価をするが、指定の施設に辿り着けない場合、各自自治会の集会所を使う事になる。その集会所の活用は考えているのか尋ねる。

また有事には消防団の連携と団員の役割について、団員の皆さんは防災のプロ的な人材である。通常時から団員の地位向上や、待遇改善を含めて、人材育成に努めているかを尋ねる。

**答弁** 町長 指定避難所とは最小限の生活を維持するための施設で、町内の地域交流センターや中学校など22か所を指定している。万が一の場合、共助の取り組みにより安全が確保できる集会所など、地域で決めておく一時避難場所がある。町が指定や開設するものでなく把握はしていないが、災害関連死を防ぐためにも避難の全体像の把握に努め、避難所同様の支援に努める。

消防団は非常に重要な役割を担っていて、救助活動などの災害対応には欠かせない。初期消火訓練の指導や、自主防災組織など地域住民と連携し活動をしている。消防車や活動服を更新するなど団員の安全性や活動の機能性を高め、災害対応能力の向上を図っている。今後も、装備品等の充実を考えている。

## 質問 児童生徒の防災教育について

### 答弁 工夫した防災学習を行っている



**質問** 児童生徒への防災教育について伺う。

災害時の自助は、自分の命は自分で守る。共助は、友人や地域での助け合い。公助は、行政からの手助けである。

公助には限りがある。このようなことを話し合う機会は設けられているか。

また、災害時における訓練のようなことはされているか。

**答弁** 教育長 「災害は、いつでもどこでも起こりうる」という認識を基に自分の置かれた状況を的確に判断し、主体的に行動する力を身につけることが重要である。各学校行事の避難訓練など、実践的な防災学習を行い各教科では、大地のつくりや気象の変化・過去の自然災害なども学習している。

災害時に自らの命を守る自助・共助の担い手として活躍できる態度と人材の育成を目指し、各学校で工夫した防災学習を行っている。防災対応能力の育成を目指した訓練を年間3回以上実施している。災害から家族や地域を守り、地域社会の安全に貢献できる共助の担い手として成長するよう防災教育に努める。



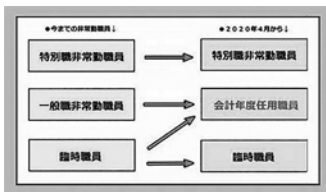
赤松義生 議員

### 質問 会計年度任用職員の処遇改善を

その他の質問

- ①国民健康保険税について
- ②使用済み核燃料の中間貯蔵について

### 答弁 給与の遡及改定の是非を含め処遇改善を検討する



**質問** 自治体の仕事は本来正規の職員で行われるべきものであるが、本町には197名の会計年度任用職員がいる。好ましいことではないが、会計年度任用職員はなくてはならない存在になっている。総務省は、会計年度任用職員の給与改定について、常勤職員の給与改定に係る取扱いに準じて行うよう通知を出している。また、総務省は今回の給与改定で、令和5年4月に遡って適用できるように交付税で手当てをしていると知っているが、総務省の通知通り遡及すべきと思うがどうか。

**答弁** 町長 令和2年4月から非常勤職員である会計年度任用職員が導入され、多くの自治体で教育・子育て等、様々な分野で活用され地方行政の重要な担い手となっている。本町では令和6年3月1日現在で延べ198人を任用しており、正規職員124人を上回る職員数である。職種、職務内容も異なるが、事務職員、学校支援員、給食調理員などの教育分野、保育士、児童クラブ支援員などの子育て分野、地域交流センター職員などのまちづくり分野でも多く任用し、幅広い分野で活躍している。給与改定は任期、勤務条件など実情を踏まえ効率的な事務処理を研究し、周辺自治体の状況にも留意し、給与の遡及改定の是非も含めた処遇改善を検討している。

### 質問 訪問介護の存続のために、総合事業の報酬増を

### 答弁 要望、現場の声を国や県に対して届けたい



**質問** 厚生労働省は、来年度の介護報酬改定で訪問介護事業所が他の介護サービスよりも高い利益を上げていると、訪問介護の基本報酬を2〜3%引き下げる予定のようだ。厚生労働省の調査では36.7%の事業所が赤字状態だ。ホームヘルパーの方の仕事に対する情熱にこたえるためにも、事業所の存続のためにも総合事業での報酬を引き上げ、高齢者が安心して暮らせる町にできないか。

**答弁** 町長 厚生労働省は、令和6年度介護報酬の改定は介護事業の経営実態調査結果を踏まえた内容であると説明。地方や小規模事業所等の声がどの程度反映されたかは不明だが、訪問介護サービスは在宅生活を送る高齢者にとって重要な機能的サービスと認識しており、訪問介護事業所の経営に影響を及ぼすのではないかと危惧している。住みなれた地域でその人に応じた適切なサービスの提供ができるように、国や県に対し要望する。

総合事業の報酬改定についても令和6年度の介護報酬改定に併せ、今後国から参考例が示されるため、動向を注視し対応する。処遇改善の取り組みの継続を含め、要望、現場の声を国や県に対し届けていきたい。





原 真紀 議員

## 質問 防災について

### その他の質問

・中学校部活動の地域移行について



## 答弁 地域の防災意識の向上を図る

### 質問

①災害時の水の確保はどうなっているか

能登半島地震の被害で水の確保が困難であった。平生町は災害時の水の確保はどうするのか。

各自治会単位での防災協力井戸の登録を町から呼びかけてみてはどうか。

②ハザードマップの活用はどの程度できているか。スマートフォンなどの情報機器から現在の危険を知ることができるよう、地図をまとめることはできないか。また、英語版を作成することはできないか。

③現在の町内を地域防災から見た良い点と改善点は。その改善点の今後の取り組みは。

### 答弁

町長

①発災時の応急給水は田布施・平生水道企業が行う。給水ポイントは9か所ある。町全域が断水した場合、協定により県などに要請し水源を確保する。井戸水などを利用している地域の12自主防災組織に発電機を交付し、生活用水を確保している。防災協力井戸は共同の取り組みでお願いしたい。

②ハザードマップは6種類あり、まとめるとわかりにくくなる。国の重ねるハザードマップでは、スマートフォンで現在の災害リスクが確認できないが、危険度は色分けなどにより直感でわかるような表示をしている。③良い点は多くの自主防災組織があり、町民に高い防災意識がある。この組織を再編して地域防災マネージャーを中心に地域の防災意識の向上につなげたい。

## 質問 上関町の中間貯蔵施設計画について

## 答弁 今後の動向を見て対応していく

### 質問

①能登半島地震と原子力関連施設による被害をどう受け止めているのか。現在上関町で調査が進んでいる使用済み核燃料の中間貯蔵施設を考える時、平生町の将来をどのように考えるか。

②上関原発計画や使用済み核燃料の中間貯蔵施設計画について現時点でどう考えているか。

③12月で質問させていただいた「事業者以外で、使用済み核燃料の中間貯蔵施設について問題点を指摘している有識者からの話を聞く機会について」は、1市3町の首長とはどのような話になっているか。

④国策であるが原子力発電施設及び関連施設の計画建設について「周辺自治体の同意が必要である。」ということや国や県へ要望する考えはあるか。

### 答弁

町長

①南海トラフ地震の発生が予想される中、他人事ではなく今できる万全な体制を整え備えていかなければならない。上関町では中間貯蔵施設の立地の可能性について調査中で仮に立地が可能となれば建設に向けた計画が示される。今後の動向を見極め、住民の安全安心を第一に対応する。

②住民から不安や懸念などの声があり、中国電力に説明と責任ある対応を求めてきた。

③具体的な協議はしていないが多方面からの情報や、国や県への要望など検討していく。

④県や国に要望する際は4市町でやっていたい。首長会議で決定する事項であり、その方向で検討するように私からも呼びかけていきたい。





岩本ひろ子 議員

## 質問 町財源の確保について

### 答弁 安定的な財源確保を図る

**質問** 令和6年度当初予算案では町税は0.2%減り、依存財源の中でその他の区分では、19.4%減になっている。また、財政基金の残高からその52%を取り崩している。町税やその他の収入が減る中、持続可能な安定した町財源の確保が必要だと考えるが、そのためにはどのように考えているか。また、ビジョンはあるのか。

人口を増やすため、近隣の市町にある企業へ勤める人にも住んでもらえるよう、生活環境、防災環境、教育環境を整え、価値のあるベッドタウンとして定住してもらえないか。取り組みはできないか。

**答弁** 町長 予算編成では、国や県の補助事業の積極的な導入や特別交付税措置を活用した事業の展開、また今年度の償還に対して交付税措置がなされる有利な地方債を活用する。国などの外郭団体等による助成制度の活用などで財源確保を図っている。将来的に税収などの増加を見込むことができる施策を仕掛けることで安定的な財源の確保につなげる。

人口増加に向けて多方面にわたっての取り組みを進めている。移り住んで定住してもらうには町の魅力を高めることが大切だ。多方面にわたる取り組みを総合的に進めていく。

町長としていろいろな企業を訪問することなど、誘致に向けて一生懸命取り組んでいきたい。

## 質問 救急車の出動について

### 答弁 県や医療機関に要望していく

**質問** 救急車に乗ってから病院への受け入れ先の調整に、20分〜30分以上かかった上に病院までの移動に更に時間がかかっています。命にかかわることですので、救急車の初動体制の見直しをして、効率的に患者さんを病院へ送り届けるシステムにはできないか問う。

救急車が出動してから病院へ行くまで実際どれくらい時間がかかっているのか。消防署と医療機関とはどのような決め事になっているのか。



広域消防の救急車

**答弁** 町長 昨年の柳井地区広域消防組合管内の救急発生件数出動回数は4,029件、搬送件数は3,483件。そのうち本町分は555件と搬送件数は470件。救急車が現場に到着する平均時間は約10分。搬送先の医療機関へは約45分である。患者の症状により、専門外、設備の不足、人材不足、緊急案件が重なっているなどの理由から調整に時間がかかっている。

住民が安心して生活できる地域医療のさらなる充実に向けて、救急の初動体制の見直しや医療機関とのスムーズな調整など適切な医療を受けられる緊急医療体制の確保について、県や医療機関等に要望していく。



細田留美子 議員

## 質問 人口減少への適応策はどうか

### 答弁 定住プロジェクトは一定の効果があった

#### 質問

町内の人口減少の対策として移住者定住対策に取り組んできたが成果はどうか。

昨年、国立社会保険・人口問題研究所が全国の人口推計を公表。本町では2050年に6,667人と推計された。行政の計画以上に減少が進んでいる。他の自治体も同様な中、人口の奪い合いの対策より現状に即した施策に転換する時期だ。

町長 アイ・ラブ・ひらお 定住プロジェクトとして若者定住促進住宅事業、新婚新生活応援事業、企業支援事業などの事業を行い、町外から本町へ移住定住する取り組みを行っている。直近5年間の転入者数は1,689人、同プロジェクトによる転入者数は201人で率にして12%と一定程度の効果があった。イタリアーノひらおシテイープロモーション事業として、住民の町への愛着度を高め、魅力を向上させ、その魅力を町内外に発信する関係人口創出事業を実施した。今後もメルカートやまちづくりセミナーを開催することにより、住民満足度幸福度の向上に努めてまいりたい。

## 質問 防災計画の進化を望む

### 答弁 災害対応能力の向上に努める

#### 質問

町内では近年大きな災害は起きていないが安心してはいられない。そこで次の質問をする。

①昨年、地域防災マネージャーが総務課に配属になった。町民への知名度が低いのがこれからの活動方針を聞く。  
②災害時のデジタル活用は考えられているか。  
③液体ミルクなどの備品は整備されているか。  
④ペット同伴避難への対応はどうか。  
⑤自助共助の育成への取り組みはどうか。

#### 答弁 町長

①地域防災マネージャーが地域へ出向き、災害事象訓練や避難所運営ゲームといった手法を活用した事象訓練を行うことや、防

災訓練のサポートなどに取り組み。  
②消防団にドローンを導入し、操縦士の育成を計画しており、救助につながる。  
③乳児用ミルクは、賞味期限が18か月に延ばされた商品も開発されているが賞味期限が短いので備蓄していかないが、災害協定により、調達が可能となっている。  
④犬や猫等ペットは、避難所の室内・屋外であっても受け入れていない。  
⑤避難所では、地域の連携、協働により、地域主導で自主的な避難所運営に携わること、職員は復旧、復興業務へ移行できる。

宇佐木地域交流センターと平生町体育館で避難所運営手引きを作成している。







中本敦子 議員

### 質問 柳井地域の水道事業の広域化はどう進んでいるのか

#### 答弁 水道事業の統合に関する基本協定書に調印したところである

質問

①広域化する一番のメリットは何か。  
②広域化に伴い水道技術者の人数や1年間の必要経費はどのようになるのか。  
③田布施・平生水道企業団の今後はどのような形で進めるのか。

提案として予備水源も必要と思う。能登半島地震の情報により水の必要性を強く感じる。何日も断水のエリアは広域化が進んでいない地域だ。広域化は将来的に大切である。

④今回の広域化はあまりにも唐突なので町民が広域化の必要性を理解し、広域化または田布施・平生水道企業団の両サイドから一番よい方法を導入する時期を検討してからスタートしてはどうか。

将来を考えると人口減少または合併の場合、広域化はぜひ必要だと思う。

答弁 町長

①経営主体が大きくなり、水道職員を集約でき、技術力の向上が見込まれることと、老朽化した施設や水道管の更新費用に国の交付金が活用できること。

②各水道事業者の現状の体制を引き継ぎ、必要経費については、令和6年度は例規整備に係る経費や職員派遣の人件費などを負担金で予算計上している。

③田布施・平生水道企業団の水道事業は、令和7年4月1日に柳井地域広域水道企業団に引き継がれる予定である。

④水道事業は多くの課題に直面しており状況は厳しい。広域化は水道事業の基盤強化が目的で、国も広域的な連携を推進している。柳井地域でも協議を重ね、本年1月30日に柳井地域水道事業の統合に関する基本協定書に調印したところである。

### 質問 少子化対策について

#### 答弁 出生数の増加を目指していきたい

質問

①少子化の現在、今後出生者数アップの見込みは。  
②出生者数の歯止め対策をどのように考えているか。

出産・子育て支援所得向上、年収の壁等をしきりに報道しているが、現実には物価上昇で若い人は共働きにならないざるを得ない。

③現在平生町は、新築物件は増えるが人口数は伸びない。よい環境で子育て、安心安全で働く環境は、三世代同居家族が望ましいと思う。退職後第二の人生を農業・漁業をしながら孫の世話が生きがいになり、長寿の町を目指す。同居のため増改築支援事業導入を推進し、毎年奨励金を支給するなど応援する対策は考えられないか。

平生町に転入者が増え、空き家対策にもなる。提案する。

答弁 町長

①出生者数は、ここ数年50人前後で推移している。

②子育て家庭の負担軽減と安心して出産、子育て応援事業、紙おむつ等の育児用品購入を支援・支給するカンガルーノひらお育児応援事業、0歳から18歳までの子ども医療費の無償化を実施している。今後は第2子以降の保育料の無償化に取り組みたいと考えており、多子世帯の経済的負担の軽減に取り組み、出生数の増加を目指したい。

③三世代同居家族に対しては、若者定住促進住宅事業において増改築費の助成を行って一定の効果があると考えている。

提案された施策等については、費用対効果も含めてさらなる支援策について検討をしていきたい。

生活応援のため、全町民に5千円分の商品券を配布

1月26日臨時議会が開かれ、全町民に5千円分の商品券を配布する予算などが含まれる補正予算と手数料徴収条例の一部を改正する条例など条例2件の3議案が上程され、いずれの議案も全会一致で可決されました。

●生活応援商品券配布事業

物価高騰の影響を受けている家計への生活応援及び地元経済の活性化を支援するために全町民一人当たり5千円分の商品券を配布するもので、商品券は3月末から順次配達されます。予算6,408万2千円

【質問】生活応援商品券配布事業は従来商工会への事業の委託もあり、



産業課であったが、今回総務課が担当になった理由は。

【答弁】前はコロナ対策として産業を立て直す意味合いが強かったので産業課で対応した。

今回は物価高騰に対する生活支援であり、総括的に総務課としたが、産業課も連携して取り組む。

●物価高騰対応重点支援臨時給付金事業

物価高騰の影響を受けた低所得世帯（住民税均等割のみの課税世帯等）に対して、重点支援給付金を給付することで、経済的負担を軽減するもの。（1世帯当たり10万円）

●物価高騰対応重点支援臨時給付金事業（こども加算分）

物価高騰の影響を受けた子育てをしている低所得世帯（住民税非課税世帯・住民税均等割のみの課税世帯）に対して重点支援給付金を給付することで経済的負担を軽減するもの。（子ども一人当たり5万円）

◆平生町手数料徴収条例の一部を改正する条例

戸籍法の改正により、戸籍および除籍電子証明書提供用識別符号の発行に係る手数料等を定めるもの。

◆平生町空家等対策の推進に関する条例の一部を改正する条例

空家等対策の推進に関する特別措置法の改正に伴い、法の条ずれに対応するもの。

中国電力、上関地点における使用済み核燃料の中間貯蔵について説明

説明会では、最初に中国電力のホームページで公開されている「中間貯蔵施設の概要」の動画を見たのち、説明資料に基づいて説明を受けました。

説明では、上関地点に中間貯蔵施設の設置検討を進めることとした理由について①地元からの要請に応えることができる。②設置に

必要な強固な地盤を有している。③施設設計や安全審査のためのデータがある程度そろっている。また、国も全面に立って理解の促進に取り組むという大臣談話などが示されました。

その後、中間貯蔵施設の概要について説明を受け、議員からの質問も行いました。

議員からは、「中間貯蔵施設は問題ありとの立場の専門家の意見を聞く用意はあるか。」「よく説明して町民の不安を取り除いて欲しい。」「中間貯蔵施設と原子力発電所の関係。関西電力との関係について説明をお願いする。」「中国電力が我が事として取り組んでいるというより、言われたからやっているように見える。」「周辺の声をしっかり聞いて欲しい。」「周辺の市町にまともな相談もなしに計画が浮上したのは問題」などの意見・質問・要望が出されました。

中国電力は、それぞれに回答し、周辺の市町に説明が遅くなったことを陳謝しました。



中国電力から説明を受ける議員

# 研修報告

## 山口県 町議会議員研修

2月20日にセントコア山口（山口市）において、全国町村議会議長会事務総長の赤松俊彦氏を講師に迎え、「町村議会の課題」と題して講演が行われました。

町村議会の現状と課題については、議員のなり手不足による無投票・定数割れ団体の増加、女性議員の割合の低さが問題であり、多様な人材の参画を前提とした議会運営、議会の役割、議員の職務の重要性などを住民に知ってもらうことが必要だと話されました。平生町議会においても、議会の役割や重要性を知ってもらえるよう、議会だよりで発信していければよいと思います。

また、赤松氏は自治省に入省され、総務省を退職されるまで栃木県副知事や大学教授など

様々な役職を歴任されており、その経験から、人口減少や少子高齢化が進む中での地方財政の課題などについて話されました。

平生町もみなさんが住みよい「ひらお」になるよう努力してまいります。



## 市町村議会議員研修

【場所】全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）

◎1月22日～23日

〔内容〕令和5年度第3回市町村議会議員特別セミナー

〔受講者〕原貞紀議員

## 議会の動き

(R5. 12. 15 ~ R6. 3. 6)

- 12月15～25日 令和5年第9回定例会
- 12月25日 議会全員協議会
- 〃 議会タブレット導入に係る協議
- 12月26日 第3回田布施・平生水道企業団議会定例会
- 12月27日 柳井地域広域水道企業団議会第2回定例会
- 令和6年
- 1月26日 令和6年第1回臨時会
- 〃 議会全員協議会
- 1月30日 柳井地域水道事業経営統合調印式
- 2月5日 中間貯蔵施設建設計画に係る説明会
- 2月20日 全国町村議会議長会自治功労者表彰及び町村議会表彰の伝達式
- 〃 県町議会議員研修会
- 2月22日 柳井地域水道事業経営統合の説明会
- 2月26日 議会運営委員会
- 2月28日 議会全員協議会



## 原稿募集

議会のこと、我が町自慢、つれづれに思うこと何でも結構です。

字数 400字以内

提出先

平生町役場、議会事務局、議会広報担当者

紙面の都合で一部変更することもあります。掲載文には薄謝を差しあげます。



## お詫びと訂正

令和6年1月26日発行、第171号において下記の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
7ページ 平岡正一議員「教育施設の新設に向け財源対策に取り組みを」の写真（平生小学校）の説明	築後70年を超える校舎もある平生小	築後50年を超える校舎もある平生小

## 令和6年6月定例会会期（予定）

6月17日(月)	9時～	本会議
18日(火)		本会議
19日(水)		産業文教常任委員会
20日(木)		総務厚生常任委員会
24日(月)		議会運営委員会
25日(火)		本会議

## 編集後記

平生町議会議員になり1年が経過しました。以前は、佐賀地区集落支援で佐賀地区のみなさまや佐賀コミュニティ協議会のみなさまに大変お世話になりました。

3月には、平生中学校と佐賀小学校の卒業式に出席し、4月には、平生中学校と佐賀小学校の入学式に出席しました。

私は、昨年より若い世代の方たちと化学肥料・農薬を使わない米づくりを始めました。

今年、若い世代の方たちが増え、その子どもたちと楽しく安心・安全な米づくりの時間を一緒に過ごすことが楽しみです。自分たちで育てた米はとても美味いので佐賀地区から平生町全域に広げられたらと考えています。

田んぼで自然を感じながら泥だらけでしゃぐ子どもたち。は将来いい思い出になって平生町を忘れないと思います。

中村 一幸